まずお読みください　防災マップの活用方法

Language

日頃から防災マップを活用し、いざという時に備えましょう

ステップ1　自分の地域を確認してください

防災マップには地震時（P9～P48）と風水害（台風・豪雨）時（P49～P88）に想定される災害について色別に表示しています。自分が住んでいる場所の周辺にどのような危険があるか確認しましょう。

風水害時のマップの使い方

「わが家の災害の危険性」と「台風や豪雨時に出される警戒レベル」で避難の準備や避難のタイミングを判断できます。

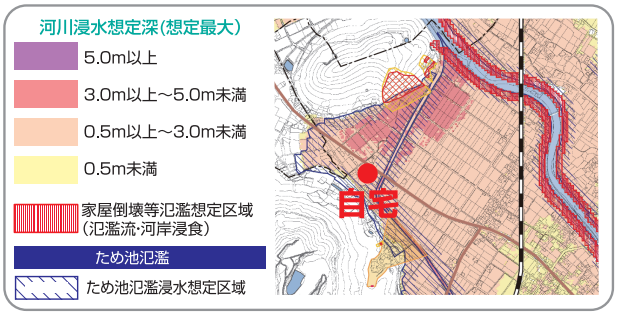
台風や豪雨時には、テレビなどで気象情報を確認している方が多いと思いますが、気象庁等が発表する情報や市役所が発表する防災情報が数多くあり、家族にとって、どのような注意報や警報が避難するときの目安になるか判断できず（例えばどの情報が自分たちにとって避難勧告に相当するかが分かりにくい）、逃げ遅れにつながっていることが多いと考えられます。以下の簡単な手順に従い、この解決策を具体的に体験してみましょう。

① わが家で想定される浸水の深さから見た正しい避難方法は？

① わが家から避難場所までの避難経路を、風水害編（台風・豪雨）49ページから88ページの中から見つけ、河川の洪水による浸水の深さや土砂災害の危険性（特別警戒区域・警戒区域）を確認してください。

② 93ページの「豪雨時の避難の準備や避難のタイミングは、気象情報が基本」を開く

- 「レベル1」で、ハザードマップで確認したすべての災害危険性の番号に○をつけて下さい。
- レベル2～レベル5で該当する同じ危険性番号に○をし、左側の対応する「注目すべき気象情報」に、太いマジックペンなどで、○を付けて下さい。右の事例では、自宅から避難経路上に②と⑤の危険性が当てはまった場合です。



豪雨時の避難の準備や避難のタイミングは、気象情報が基本

警戒レベル	注目すべき気象情報（警戒レベルに相当する情報）	マイタイムライン 住民等が取るべき行動	マイタイムライン 避難のスイッチ・避難行動の基準
警戒レベル 5	大雨特別警報（土砂災害） 大雨特別警報（浸水害） 氾濫発生情報	命を守るため最善の行動	避難のポイント ②洪水 ④がけ崩れ、土石流、山崩れ ⑤ため池決壊 浸水の可能性のある土地に住んでいる人は、河川から離れ、上階にいくこと。 土砂災害の避難では、避難できる余裕があれば、避難。しかし、避難する余裕がなく、すでに周囲に土砂の流入や浸水が始まっていれば、覚悟を決めて、助かる可能性がある家の上階、山や崖の反対側に行くなど、「命を守る最善の行動」をします。
警戒レベル 4 全員避難 避難勧告・避難指示（緊急）	土砂災害警戒情報 高潮特別警報 高潮警報 氾濫危険情報 危険度分布（非常に危険、うす紫）	三豊市からの避難勧告・避難指示（緊急）の発令に留意。 避難勧告が発令されていなくても危険度分布や河川の水位情報等を用いて自ら避難の判断。	④ がけ崩れ、土石流、山崩れ ③ 高潮 ③ 高潮 ② 洪水 上記危険箇所の住民（ハザードマップで確認できます）は、災害危険度の分布状況や河川の水位、沿道の浸水状況に注意しながら、避難勧告あるいは避難指示（緊急）の発令段階には、「避難のタイミング」を用いて、早目に災害の危険性が少ない場所に移動する避難を開始してください。
警戒レベル 3 高齢者等は避難開始	大雨警報（土砂災害） 洪水警報 高潮注意報 氾濫警戒情報 危険度分布（警戒、赤）（上記の情報に係る範囲が赤色で着色）	三豊市からの避難準備・高齢者等避難開始の発令に留意。 危険度分布や河川の水位情報等を用いて、高齢者等の方は、支援者等の協力を得て、避難行動を判断。	④ がけ崩れ、土石流、山崩れ ⑤ ため池決壊 ① 内水（浸水実績） ② 洪水（中山間地等では、④がけ崩れ、土石流、山崩れの危険区域を含む ※1） ③ 高潮 ② 洪水 上記危険箇所（ハザードマップで確認できます）の高齢者等住民は、「避難のタイミング」を用いて、事前に調整した支援者の協力も得ながら、河川の水位や沿道の浸水状況に注意しながら、避難を開始してください。
警戒レベル 2 避難行動の確認	氾濫注意情報 大雨注意報 洪水注意報 高潮注意報 危険度分布（注意、黄）	テレビ・ラジオ等で危険度分布を確認 ↓ 避難のスイッチを入れる ↓ ハザードマップ等により、避難先、避難経路を確認	① 内水（浸水実績） ② 洪水 ① 内水（浸水実績） ④ がけ崩れ、土石流、山崩れ ① 内水（浸水実績） ② 洪水 ③ 高潮 上記の危険箇所（ハザードマップで確認できます）の住民等は、「避難のタイミング」を用いて、安全な避難先や避難経路を確認する。
警戒レベル 1 心構えを高める	早期注意情報（警報級の可能性）	テレビ・ラジオ等で、気象情報を入手 ↓ 本表の「マイタイムライン」や「三豊市民の避難行動」をチェック	洪水や土砂災害のハザードマップを見て、自宅からの避難経路上に、下に示した①から⑤に関するどのような危険性があるのか、該当するものすべてに○を付けて下さい。同じように、警戒レベル2～5でも、レベル1で○をつけた同じ番号全てに○をつけ、その左隣の気象情報もマジックペン等で囲んでください。 ①内水（浸水実績） ②洪水 ③高潮 ④がけ崩れ、土石流、山崩れ ⑤ため池決壊

② わが家（木造）は、逃げ遅れて２階に逃げても危ないのか（逃げられるタイミングはいつなのか）？

三豊市から「警戒レベル」が発表され、該当する危険性があった場合は、「避難のタイミング」や「警戒区域における避難の呼びかけ」でわが家の避難のタイミングを照らし合わせ、マップから、わが家が「各種危険箇所対象区域」に位置していないか確認し、適切な避難行動を開始してください。

P93 参照

ステップ1 自分の地域を確認してください

防災マップには地震時（P9～P48）と風水害（台風・豪雨）時（P49～P88）に想定される災害について色別に表示しています。自分が住んでいる場所の周辺にどのような危険があるか確認しましょう。

地震・津波時のマップの使い方

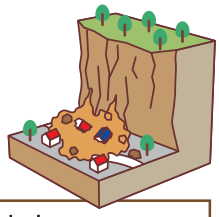
南海トラフを震源とする巨大地震が発生すると、以下の「地震の被害が起きる順番」に示すように、複合した災害が発生するものと考えられます。三豊市では、広い範囲で震度7から震度6弱の揺れが想定され、耐震性が低い家屋等では倒壊のおそれがあります。その後、津波の遡上が想定される範囲の多くでは、安全な場所へ避難するための道路が液状化被害により避難が困難になることが予想されます。下の図に示すように、まず、慌てず身の安全を確保して、その後、安全な場所に移動をして下さい。

地震の被害が起きる順番

① **家が壊れる**

地震で揺れたとき

② **崖が崩れる**



地震のすぐあと

③ **液状化が起きる**

地震から10分後くらい

④ **ため池が壊れる**

地震から30分後くらい

⑤ **津波がくる**

地震から30分から240分後くらい

慌てずに身の安全を確保

■ 震度7～震度6弱の地域はどこ？

ゆれやすさマップ P89

今までの地震の被害記録から、家屋や生命に大きな被害が発生するのは、震度6強以上といわれています。三豊市で大地震が起きた時、その範囲はどこになるのか、知っておくことは重要です。

■ 地震発生直後の身を守る行動は？

地震 P7-8

地震が発生する時間を予知することは、現在の科学では不可能です。その時、自宅であったり、学校、ビルの中、住宅街、山間部や自動車を運転している場合もあります。その場所で、命を守る行動の基本を理解しておくことも重要です。

安全なところに移動

被害の起きる場所と順番を理解して、安全に移動するには

皆さんが住んでいる場所や勤務先などによって、地震被害の起きるタイミングと避難の方法も異なります。該当する災害の種類と危険性から逃れる避難場所の所在をあらかじめ確かめておきましょう。

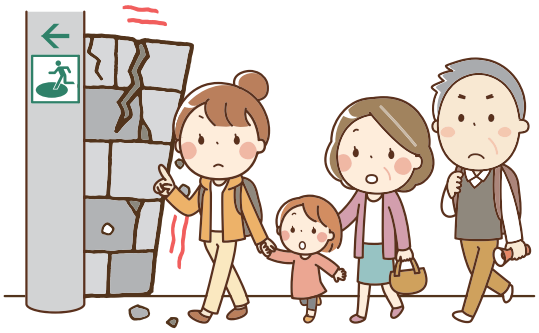
- ■ 土砂災害の警戒区域はどこ？ ▶ P9-48 地震編
- ■ ため池浸水区域はどこ？ ▶ P9-48 地震編 P49-88 風水害編
- ■ 津波による浸水想定区域はどこ？ ▶ P9-48 地震編
- ■ 液状化による避難の困難さの程度は？ ▶ P90 液状化マップ
- ■ 身近な一時避難場所はどこにあるのか？ ▶ P9-48 地震編
- ■ 津波避難では非常時持ち出し袋を準備しておく ▶ P103 非常持ち出し品

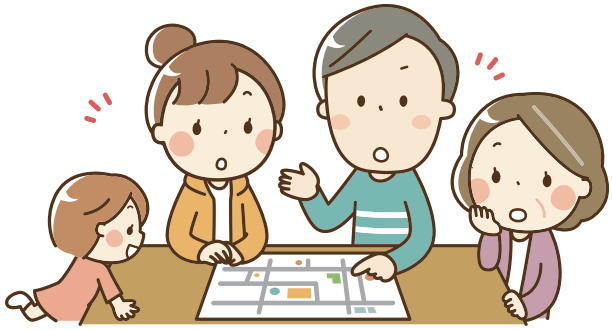
ステップ2へ

ステップ2　災害ごとに、避難場所や集合場所、避難経路について、家族や地域で話し合って検討してください

地震が発生した直後の避難では、周辺の状況に注意を払い、建物内へは避難せず屋外に避難してください。

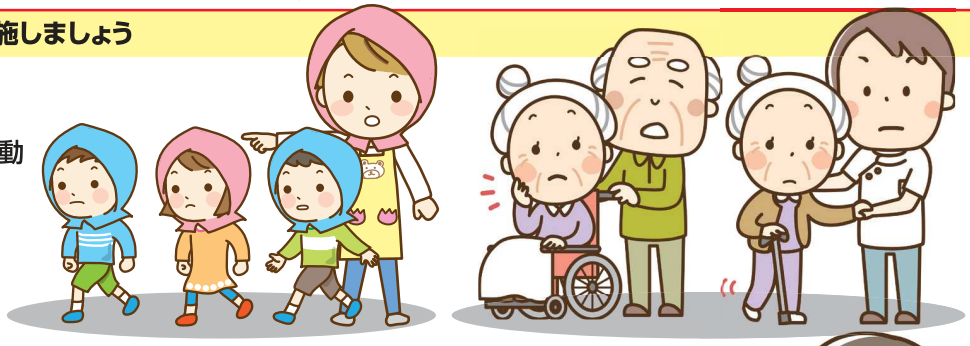
地震編(P9～P48)には、ワークショップを開催し参加者に検討していただいた地震発生時の一時避難場所を掲載(●印)していますので、地震発生時の一時的な避難場所や集合場所の参考としてください。
地域特有の自然災害(水路の浸水、がけ崩れ、高潮など)や避難時に危険な箇所(「ため池」、「狭い道」、「行き止まり」、「塀の倒壊」など)、過去の災害などについて、家庭や地域で話し合い、実際に避難場所や集合場所まで歩き、安全な避難経路を確認し、マップに書き込みましょう。





ステップ3　避難訓練を実施しましょう

家庭や地域で避難訓練を実施し、「いざ」という時の迅速な避難行動につなげましょう。



災害情報伝達手段について確認してください

台風・大雨・地震のときには、防災行政無線・テレビ・ラジオ・防災情報メール・インターネットなどの気象情報や避難情報に注意しましょう。(P95をご覧ください)

家族との連絡方法を決めておきましょう

災害時は電話回線がつながりにくくなりますので、「災害用伝言ダイヤル」や「災害用伝言板」などの利用方法について日頃から家庭で話し合い、確認しておきましょう。
(利用方法はP95をご覧ください)

防災マップを目に付くところに備えておきましょう

この総合防災マップや各種ハザードマップを普段目に付くところに備えておき、平常時に確認したり、いざという時には持ち出して、迅速で効果的な避難行動が行えるようにしましょう。